

兵庫県立明石北高等学校

地域の特定外来生物を題材とした探究活動および環境教育の推進



継続調査で挑む外来生物対策

受け継がれた研究テーマ

2022年6月、サクラやウメの木を食い荒らす特定外来生物クビアカツヤカミキリが兵庫県内で初めて見つかった。発見場所に近い県立明石北高等学校の有志生徒は直ちに調査を開始。周辺のサクラの木の調査マップ作成などにより侵入初期段階であることを突き止め、県から表彰された。以来、同校では科学探究部生物班(生物部)などで様々な外来生物の研究を行っている。

兄が2022年調査のメンバーだった3年の中谷絢子さんは、同じ3年の永田帆帆子さんと生物部でクビアカの調査を継承しながら、探究授業でアルゼンチンアリの研究も実施。「粘着トラップや市内の分布予測マップを作っています」と話す。予測マップは兄のサクラマップと同様、自治体に提供して活用されている。



調査と啓発活動の成果

二人と同様、生物部員の多くは探究授業でクビアカ以外の外来生物も研究している。3年の谷口嘉乃さんはナガエツルノゲイトウについて研究し、彼女の校内発表に刺激を受けた2年の笠嶋優衣さんが研究を継承・発展させている。担当の植田好人教諭は「外来生物対策で重要なのは継続調査と啓発。部活動に限らず、様々な形で継承・継続されるのが理想だと考えています」と話す。

啓発活動のほうでは、近隣小学校への出前授業などを実施。2年の赤松美緒さんや1年の木村琴葉さんは「わかりやすい言葉で説明するように心がけました」と振り返る。また、定期的に行ってきた校内発表も啓発の一環として効果を發揮しており、今では明石北高校でクビアカツヤカミキリの名を知らない生徒はほとんどいない。さらに、植田教諭は「生物部以外で活動に参加する有志生徒が増え、環境保全意識も広がっています」と目を細めていた。

(個別校助成)

●実施担当

植田好人 教諭

●活動のモットー

実際に触れ、じっくり観察する。そこから湧き上がる興味や疑問こそ、学びの始まりだと思っている。



普通科と理数系教育に重点を置いた自然科学を設置。文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールにも指定される進学校。

設立: 1972年

生徒数: 960人

所在地: 兵庫県明石市大久保町松陰364番地1



この活動は、中谷財団の「科学教育振興助成」により行われています。

